様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21 年　4 月　17 日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2005～2008
課題番号：１７３２００３６
研究課題名（和文）　近世初期工芸にみる国際性
　　－大航海時代の寄港地間における美術交流に関する研究
研究課題名（英文）　Internationality of Japanese Craft in the 16th and 17th centuries: from the Perspective of Inter-port Artistic Exchange

研究代表者
日高　薫（HIDAKA KAORI）
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授
研究者番号：80230944

研究成果の概要：
本研究では、16 世紀から 17 世紀にかけての時期に、日本で制作された輸出工芸品・同時代に国内向けに制作された工芸品・貿易船が停泊した地域において制作された工芸品の資料調査を広く行い、技術や様式の交流や異文化受容の実態を把握し、日本近世初期工芸がインターナショナルな性格を有していたことを明らかにした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2005 年度	3,900,000	0	3.900,000
2006 年度	3,600,000	0	3,600,000
2007 年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2008 年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
年度			
総　計	14,300,000	2,040,000	16,340,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学、美学・美術史
キーワード：南蛮・輸出漆器・東西交流・工芸・美術史・大航海時代・貿易船

１．研究開始当初の背景

(1)　国内における過去１０年間ほどの輸出工芸、ことに輸出漆器研究の進展には眼をみはるものがあり、本研究組織の構成員を含む多数の研究者により、欧米の先行研究が紹介され、新知見も提示されている。

(2)　しかしながら、従来の南蛮美術研究は、「東西交流」というキーワードとともに日本対ヨーロッパ（ポルトガル・スペイン）という構図でとらえられがちであった。無論ヨーロッパ対アジアというような対概念は、異文化との接触に際しての「他者」認識につきものであり、それ自体を排除するものではない。しかしながらこの時期の美術交流の実際は、ヨーロッパのみならず広く貿易船の寄港地の様式が混淆し、お互いに影響を及ぼし合いながら展開した点に特色がある。

ヨーロッパ以外の地域との交流に関しては、しばしば解明の重要性が指摘されて

はきたものの、若干の個別作例の紹介が行われたのみで、当課題に焦点をあてた研究はほとんど行われてこなかった。

(3) これに対し、海外の研究においては、こうした視点に立つ研究が近年数名の研究者たちによって積極的に推進されており、「Exotiaca」(ウィーン美術史美術館・1999)、「The World of Lacquer」(グルベンキアン美術館・リスボン・2001)などの展覧会が開催されるに至っている。ただし、欧米の研究者によるこれらの研究は、ヨーロッパからの視点にとどまりがちであり、従来のシノワズリ研究の枠を脱していないように思われる。

(4) このような背景から、日本の工芸に焦点を当てることにより、アジアからの視点による東西美術交流研究のモデルを提示し、国内外における当該分野の研究に新しい方向性を導くことができるのではないかと考えるに至った。

２．研究の目的

本研究は、近世工芸にみられる交流の実態を、西欧からの注文によって製作された輸出工芸品、国内向け工芸品に認められる外来影響、舶載品の受容の容態、意匠に見られる他者表象などの観点からとらえることを目的とする。16 世紀後半から 17 世紀初めにかけて日本を訪れた西洋人との交流によって生み出された工芸品（いわゆる「南蛮工芸」）や、同時代の日本において制作された国内向け工芸品を、従来の「東西（日本と西欧)」交流という枠組みにとらわれず、貿易船の停泊地周辺域(アフリカ・インド・東南アジア・中国南部・琉球・ヌエバエスパーニャなど)で製作された諸美術工芸との関係性の中で、位置付けようとする点に特色がある。

多岐にわたる問題点のうち、研究期間中（４年間）に達成したい当面の中心課題を以下の通り設定した。

(1) 南蛮漆器に関連する国籍不明の漆器群（マカオ製・琉球製などの説があるもの）の調査と位置づけ
(2) 南蛮輸出漆器の新出作品および珍しい作品の調査と紹介
(1) 南米経由でスペインに至る交易ルートによる交流の解明とその影響
(2) 初期洋風画と諸外国（中国・インド・南米など）の洋風画との比較
(3) キリスト教関係の工芸品・キリスト教モティーフに関する諸問題と諸外国との比較
(4) 近世初期の国内向け工芸品への外来影響の諸相と影響度

３．研究の方法

本研究においては、研究目的にあげた(1)～(6)の研究課題のうち、(1)(2)(3)を中心にすえ、(4)(5)(6)については補足的にとりあげることとした。海外の日本コレクション、および貿易船停泊地周辺域で制作された工芸品を主対象とし、実物資料の調査に基づく研究をおこなった。

４．研究成果

(1) 海外コレクションの調査

① アメリカにおける調査（2005 年度）

主要訪問先であったピーボディ・エセックス博物館においては、南蛮漆器をはじめとする輸出工芸品のほか、中国の輸出工芸（漆器・象牙細工・家具・陶磁器など)、南蛮漆器の様式に影響を与えたと推測されるインド・グジャラート製の螺鈿細工などを調査した。とくに、台座付螺鈿蒔絵書箪笥・キオスク型オラトリオ・衿用容器など近年知られるようになった珍しい南蛮漆器について、これらが当初からの形態か、あるいは後世の手が加わったものかどうかを確認することができたことは有意義であった。

あわせてモース・コレクション中の漆器および陶磁器、染織品の調査も行い、所蔵機関の学芸員と意見を交換することができた。

② スペイン・イタリアにおける調査（2006 年度）

スペイン王室に関するコレクションのうち、デスカルサス・レアレス修道院およびエンカルナシオン修道院が所蔵する多数のアジア製工芸品（近年、最古の来歴をもつ南蛮漆器として知られるようになった洋櫃ほか数点の日本製輸出漆器と、これと密接な関係をもつと考えられるインド・グジャラート製の螺鈿細工、南蛮漆器の影響を受けて制作されたと考えられる金彩装飾のある聖龕など）を精査した。また、アメリカ美術館において、太平洋航路でスペインに渡った日本の美術工芸品の影響を受けて中南米で制作されたと考えられる「エンコンチャド」の技法による工芸品や屏風の形態の宮廷風俗画を調査した。

また、イタリア・ローマ日本文化会館にて

開催中の特別展「天正・慶長遣欧使節とその時代展」を見学し、イタリア国内に伝世する日欧交流関係資料を実見できたことも有意義であった。

なお、今回の調査においては訪問することのできなかったが、スペイン・マドリッド所在の関連資料についての情報を現地の研究者から得ることができた。

③　オーストリアにおける調査（2007 年度）

主要な成果は、チロルおよびウィーン所在の日本美術および関連資料の調査を行ったことである。アンブラス城（インスブルック）が所蔵するチロルのフェルディナンド大公の美術品蒐集室のコレクションを調査し、産地不明の金彩漆碗、日本製の甲冑等、アジア産の蒐集品について精査した。また、オーストリア応用工芸美術館の所蔵する日本コレクションから、山水花鳥蒔絵キャスケット等、輸出漆器の調査をおこなった。加えてシェーンブルン宮殿を見学し、女帝マリア・テレジア存命中に設えられた「漆の間」や日本製輸出漆器等が飾られている様子を実見した。

④　ハンガリーにおける調査（2008 年度）

ホップ・フェレンツ東洋美術館、ラート・ジェルジ博物館、エステルハージ宮殿等に所蔵される日本関係コレクションを調査し、あわせて受容の実態について検討した。

⑤　フランスにおける調査（2008 年度）

以下の美術館等が所蔵する日本製漆器コレクションの調査を行い、多くの新知見を得た。ヴィヴネル美術館（コンピエーニュ）・ナンシー美術館・ルーブル美術館（ティエール・コレクション）・ニッシム=ド=カモンド美術館・チェルヌスキ美術館・フランス国立図書館

また、パリ装飾美術館ほかフランス国内に所蔵される日本コレクションの情報を入手した。

(2) 南蛮漆器データベースの作成

国内外に点在する南蛮漆器の資料情報を一覧できるようなデータベースを作成した。対象は、刊行物として公刊されているものと、個人的に調査できたものに限定されており、すべてを網羅したものではない。また、画像の権利問題が複雑なため、一般に公開できないが、今後、画像を省略するなどの手直しによって公開も可能である。

(3) まとめ

今回の調査研究により、南蛮工芸をめぐるアジア・アメリカ・ヨーロッパにまたがる複雑な美術交流の実態をおぼろげながら掴むことができた。とりわけ、工芸においては技術の伝播・影響の問題は重要な位置を占める。

中心課題とした国籍不明のアジア工芸品の産地問題に関しては、明確な結論を出すに至らなかったが、調査地における現地の研究者との意見交換を通じて、新しい資料情報を得られたことは、今後、調査研究をすすめていくにあたり有益であった。この領域は広範な地域・時代をまたがっているため、今後は、科学的調査を含め、より多くの遺品の精査を引き続き行う必要があることを実感した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　10 件）
① 日高　薫、「ヨーロッパ向け輸出漆器にみる異国観」、『歴史研究の最前線（美術資料に歴史を読む―漆器と洛中洛外図―』、vol.11、6～42 頁、2009 年、査読無
② 坂本満、「鼎談・東西・共時的に観た浮世絵」、『浮世絵芸術』、156 号、10～29 頁、2008 年、査読有
③ 日高薫、「異国へ贈られた漆器―天正遣欧使節の土産物」『国立歴史民俗博物館研究報告』、第 140 集、97～116 頁、2008 年、査読有
④ 日高薫、「ヤポンセ・ロッケン」、『なごみ』、No.333、淡交社、100～103 頁、2007 年、査読無
⑤ 山崎剛「在チェコ共和国日本漆器調査報告―17 世紀の作例を中心に―」、『鹿島美術研究』年報第 24 号別冊、鹿島美術財団、475～484 頁、2007 年、査読無
⑥ 中尾優衣、「長崎青貝細工に見られる花鳥表現－長崎製の作例に注目して―」、『京都美学美術史学』、6 号、31～65 頁、2007 年、査読無
⑦ 中尾優衣、「蒔絵技法から伏彩色螺鈿技法への移行―19 世紀前半における『長崎青貝細工』の制作について―」、『cross-section（京都国立近代美術館紀要）』、vol.1、28～45 頁、2007 年、査読有
⑧ 日高薫、「想像図蒔絵の原図に関して」、『国立歴史民俗博物館研究報告』、第 125 集、国立歴史民俗博物館、235～257 頁、2006 年、査読有
⑨ 日高薫、「日本の工芸意匠と自然観」、『なごみ』、No.320、淡交社、54～57 頁、2006 年、査読無
⑩ 日高薫、「歴史の証人　輸出された漆のうつわ」、『歴博』、No.133、2～5 頁、2005 年、査読無

〔学会発表〕（計　1 件）
① 日高薫「倭漆　漆工芸における中日交流（”Woqi”: Cultural Exchange of Lacquer between China and Japan, ’The fourth Inter- national Symposium of Molecular Pathology’）」、第 4 回国際分子病理学シンポジウム文化交流記念講演、新疆医科大学（中華人民共和国）、2006 年

〔図書〕（計　12 件）
① 日高薫（共著）、「南蛮屏風」、『日本とヨーロッパの肖像』（展覧会図録）、国立民族学博物館、90～91 頁、2008 年
② 荒川正明、『柿右衛門と鍋島』（展覧会図録）、出光美術館、2008 年
③ 澤田和人、『[染]と[織]の肖像―日本と韓国・守り伝えられた染織品』（展覧会図録）、国立歴史民俗博物館、207 頁、2008 年
④ 日高薫、『異国の表象』、ブリュッケ、475 頁、2008 年
⑤ 坂本満、成澤勝嗣、泉万里、日高薫、澤田和人、中野満美子、『南蛮屏風集成』中央公論美術出版、400 頁、2008 年
⑥ 丸山伸彦、『江戸モードの誕生　文様の流行とスター絵師』、角川学芸出版、245 頁、2008 年
⑦ 山崎剛（共著）、「工芸史観の芽生えと現在―古九谷論に関連して」、『美術史の余白に―工芸・アルス・現代美術―』、「工芸」シンポジウム記録集編集委員会編、美学出版、67～75 頁、2008 年
⑧ 日高薫（共著）、「『源氏物語』の漆芸意匠―寛永期における蒔絵作品を中心として―」、『和歌と貴族の世界　うたのちから』、塙書房、223～237 頁、2007 年
⑨ 澤田和人（共著）、「近世の復職にみる葦手の展開」、『和歌と貴族の世界　うたのちから』、塙書房、239～253 頁、2007 年
⑩ 丸山伸彦（編著）、『江戸のきものと衣生活』、小学館、175 頁、2007 年
⑪ 日高薫（共著）、「花鳥螺鈿聖龕」、『いにしえの旅（九州国立博物館　収蔵品精選図録）』　西日本新聞社、99～102 頁、2005 年
⑫ 山崎剛（共著）、「山水花鳥螺鈿蓋付きナイフ入れ」、『いにしえの旅（九州国立博物館　収蔵品精選図録）』　西日本新聞社、99～102 頁、2005 年

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

○取得状況（計　0 件）

〔その他〕

６．研究組織

(1)研究代表者
日高　薫（HIDAKA KAORI）
人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館・
研究部・准教授
研究者番号：80230944

(2)研究分担者
山崎　剛（YAMAZAKI TSUYOSHI）
金沢美術工芸大学・美術工芸学部・
准教授
研究者番号：70210391

坂本　満（SAKAMOTO MITSURU）
人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館・
研究部・名誉教授
研究者番号：40000450

澤田和人（SAWADA KAZUTO）
人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館・
研究部・准教授
研究者番号：80353374

(3)連携研究者
荒川　正明（MASAAKI ARAKAWA）
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：70392884

丸山　伸彦（MARUYAMA NOBUHIKO）
武蔵大学・人文学部・教授
研究者番号：90183623

中尾　優衣（NAKAO YUI）
京都国立近代美術館・研究官
研究者番号：00443466